

## 法人で行う認知症の理解を深めた職員による認知症の人にやさしい事業所展開

鳥取県認知症介護指導者

矢間やすみ

キーワード: 適時適切なサービス提供、人材確保・育成

## 活動の概要(活動の主体:個人・法人)

## 【活動目的】

法人職員の認知症介護の基礎理解を標準化し、知識を活かしたケアの工夫で、利用者のその人らしい生活を支えるためのサービス提供に繋げることを目的とする。

## 【活動内容】

平成30年度から認知症介護基礎研修と同内容の研修を、法人教育研修委員会が主体となり年3~5回、開催している。1回の受講者を少人数とし、回数を増やす事で多くの職員が受講することができおり、結果、県の研修を含めて受講修了者は170名となった。当法人には高齢者施設が6施設あり、多くの職員が認知症介護を理解したケアができるよう、誰でも現場の状況に合わせて学べる体制を取っている。

## 活動のきっかけ、背景(指導者としての立場で)

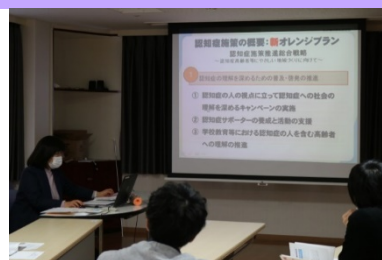
当法人は県の委託を受け、認知症介護実践者研修・リーダー研修等を実施しており、認知症介護指導者養成研修修了者が7名在籍している。法人職員数も1,200名となり、まずは法人職員の資質を向上させることが肝要と考え法人内で新たな研修を設ける事とした。法人に在籍する7名の指導者全員が法人教育研修委員会に所属し、企画・運営に携わっている。

## 活動の経過と成果

## 【活動の経過】

平成28年度より県の認知症介護基礎研修(以下、基礎研修という)開始され、平成30年度から法人内で現場の現状と研修の出やすさを勘案してニーズに合った研修体制を構築。

平成30年より、県の基礎研修にプラスして法人の認知症介護基礎研修を実施している。カリキュラムは、国の示すカリキュラムと同内容。受講者は1回、11~17名とし、「参加しにくい」という現場の悩みを理解しながら進めている。研修修了後に個々が「研修の成果」と「どのように職場に活かしていくか」をまとめ、上司に報告し、上司のフォローを受けて実践に活かす。介護職だけでなく、看護師・セラピスト・相談員等・障がい施設職員だれでも参加が可能とした。



## 【活動の成果】

新人からベテランまで、職種を問わず好評を得ている。また、グループワークを通じて様々な意見が出ており、受講者自身のケアの振り返りや利用者視点の再確認ができた。新人であっても認知症ケアに対する戸惑いが少ない内容であり、認知症ご利用者の視点に立ったケアの工夫が身につき、在宅で暮らすご家族へのかかわり方や視点が変わった。

## 今後の展望

現在の県の認知症介護基礎研修は年3回実施のため、一度に受講することが難しい。この法人研修の取組みも3年目で安定しており、この取組により認知症の人にやさしい事業展開ができている。地域で新たに働く職員等も研修の機会は少ない。参加者を法人内にとどまらず、地域の事業所への呼びかけも検討していきたい。